

## 【学生による ESD 支援活動】

### 奈良市スポーツ少年団 キャンプ 支援報告書

理科教育専修 学部 1 回生 市川侑季

理科教育専修 学部 1 回生 柳川莉沙

- 1・実施日 令和元年 8 月 22 日(木)
2. 場所 奈良市青少年野外活動センター
- 3・参加者 谷垣徹(大学院生)
- 坂本和音、市川侑季、稲原龍一、井原奈佑、柳川莉沙(学部生)
- 奈良市スポーツ少年団児童、引率教員、市役所職員 複数名

#### 4. 活動支援内容

令和元年 8 月 22 日(木)、奈良市青少年野外活動センターにおいて、奈良市スポーツ少年団に所属している児童のキャンプが行われ、本学学生 6 名が、オリエンテーリングや川遊び、野外炊飯、キャンプファイヤーなどのサポートを行った。

今回のキャンプ支援を以下の 2 点で振り返る。第 1 に子どもたちとの交流について、第 2 に学生側の学びについてである。

第 1 の子どもたちとの交流についてである。今回の奈良市スポーツ少年団は、小学 4 年生から 6 年生の全員が男の子の団体であった。今回参加した学生は女子が多かったこともあり、最初は自分

から声を掛けてくる子どもが少なかった。川遊びや野外炊飯で彼らとの距離を縮めるように努力し、午後の活動では少しずつではあったが子どもたちと打ち解けることができた。しかし、最後のキャンプファイヤーでは子どもの心をうまく掴み切れなかった。もっと自分から子どもの輪に入り込み、より早く子どもに心を開いてもらうことが大切であると学んだ。また、このような子どもたちとの関係性は、キャンプファイヤーなどのイベントにも影響することを痛感した。

第 2 に学生側の学びについてである。今回のキャンプ支援ではキャンプファイヤーの運営を全て学生が行うこととなった。今までの支援活動の中でも、野外活動支援に参加したことはあったが、キャンプファイヤーを進行し、またゲームや歌などを学生が主体となって行ったことがなかったため、とてもたくさんを学べた。歌やゲームの教え方など、キャンプファイヤーの運営、進行はとても難しいことが多かった。しかし、ゲームの進め方や子どもたちへの声かけなど、子どもたちの前に出たときに、自分がどのように立ち振る舞えばよいのかを学ぶことができた。また、キャンプファイヤーを学生が主体となって進めていくということが初めての学生が多く、それぞれがファイヤーキーパーやゲームの進行など新たなことへの挑戦ができ、貴重な経験となった。

以上 2 点が、今回のキャンプ支援を通じて特に感じたことである。まだまだ自分たちの力不足もあり、反省点がたくさんある。だが、これらは、子どもたちと実際に関わることで発見した気づきであり、将来教職に就くことを目標としている私たちの立場としては非常に良い経験ができたと感じている。今回の活動で学んだことや反省点をきちんと振り返り、改善策を考え、そして次の機会できちんと活かしていきたい。



オリエンテーションの様子